

お米が大すきな弟

栗原市立高清水小学校 2年 佐藤 羽音

わたしには、弟がいます。弟は、おにぎりが大すきです。

「おにぎりたべたいようー。」

と、いつも言っています。

朝は、半ぶん目をとじたまま、ゆらゆらゆれながらあるいてきて、茶のまにバタリとたおれてまたねます。ゆらしても、おきません。

だけど、ばあちゃんが、

「おにぎりできたよ。」

と言うと、パッチリと、目をあけて、もぐもぐとたべはじめます。

5分ぐらいでたべおわります。それを見て、家ぞくは、大わらいします。わたしは、お母さんに、

「なんでそんなに弟のことをわらっているの。」

と、聞いたら、

「おにぎりをたべないと目がさめないのは、このこぐらいだらうね。ちゃんと30回かんであじわってたべなさい。」

と、こたえました。わたしは、

(ゆらしてもさめないのに、おにぎり聞いて目がさめるなんて、弟は、よぽどおにぎりがすきなんだなー。)

と、わたしはおもいました。そんなおにぎりがすきな弟を見ると、わたしもおにぎりが、たべたくなってきました。そしてわたしもたべるとおいしくて、えがおになります。みんなをえがおにできて、弟の目もさめさせてくれるおにぎりは、すごいなと、思います。

おにぎりになるおこめを作っているうかのみなさんは、もっとすごいなと思います。

わたしは、これからもおこめ一つぶ一つぶのこさずたべるようにしていきたいです。

そして弟や家ぞくみんなと元気に楽しくすごしていきたいです。